

R7年1月放送分
「日仏共同訓練について」
(日本の防衛Q & A)
(自衛隊百科)

R6.12.25 収録

【パーソナリティー】

本日は、東北防衛局の基地対策室から古川^{こがわ}室長にお越しいただきました。よろしくお願いいたします。

【古川】

東北防衛局基地対策室長の古川^{こがわ}と申します。青森県青森市の出身です。基地対策室は、防衛施設に関する諸問題への対応や、自衛隊の訓練や米軍等との共同訓練に関して関係自治体との連絡調整などを行っています。

本日は、よろしくお願いいたします。

【パーソナリティー】

早速ですが、今日はどのようなテーマのお話でしょうか。

【古川】

はい。令和6年9月に行われた、陸上自衛隊とフランス陸軍との共同訓練についてご紹介したいと思います。

【パーソナリティー】

フランス陸軍との共同訓練ですか。それはとても興味があります。

【古川】

わが国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、日本の安全、地域の平和と安定のためには、同じ価値観や安全保障上のメリットを共有する国と連携を図ることはとても重要なことです。

フランスは特別なパートナーであり、令和6年5月には、両国間の安全保障・防衛協力を促進するなどの目的で、日仏円滑化協定の交渉

も開始していますので、フランス軍と自衛隊との共同訓練は、とても重要な位置づけとなっています。

そのフランス軍は、対ゲリラ・コマンドウ作戦における分野では、世界でも有数の優れた能力や豊富な経験を持っており、フランス軍と共同訓練を行うことは、陸上自衛隊にとって相互理解を深め、信頼関係を強化するほか、ノウハウを共有し合うことで、戦術技量の向上に繋がるものと考えています。

この共同訓練の名称は「ブリュネ・タカモリ24」と言いますが、これは、幕末期に軍事顧問として来日したフランス陸軍の将校ジュール・ブリュネ氏と、倒幕の立役者の西郷隆盛氏の名前を冠することで、両国の連携を強調し、騎士道精神と武士道精神を融合させた訓練であることを表現したものと聞いております。

【パーソナリティー】

フランス軍との共同訓練はいつから実施されているのでしょうか？

【古川】

はい。この共同訓練は、令和5年にニューカレドニアで第1回が行われ、今回が第2回です。

参加部隊は、弘前駐屯地の第39普通科連隊約100名とフランス陸軍第6軽機甲旅団約50名で、王城寺原演習場と岩手県の岩手山演習場の2箇所で開催されました。

わが国において、初のフランス軍との共同訓練であったため、地元自治体へ事前説明する際は、受け入れてくれるのか、もしかしたら反対されるのではないかと心配でした。

結果的に受け入れていただきましたが、地元自治体からは、訓練に際しては、適時適切な情報提供や安全対策の徹底などの要請を受けました。

【パーソナリティー】

この要請に対し、東北防衛局はどのような措置を講じたのですか。

【古川】

まず、訓練期間中は基地対策室から2名の職員を現地に派遣して、24時間体制で対応するために、演習場周辺に宿泊しました。

我々職員は、演習場内にある事務室に詰めて、訓練の開始時間と終了時間それと訓練の演目などを関係自治体に情報提供しました。

また、訓練に使用する車両が、王城寺原演習場と岩手山演習場との間を移動する際、万が一、交通事故があった場合にも対応できるよう、宮城、岩手の両県警とも連絡体制を構築し、速やかに対応できるよう措置を講じました。

他にも、地元自治体に正確な情報を提供するために、訓練前日のブリーフィングに東北防衛局も参加し、開始予定時間や訓練演目などの決定事項の情報収集を行い、可能な限り情報提供に努めました。

このブリーフィングは夕方遅くに実施されるため、自治体の担当職員をお待たせしてしまうことに、大変申し訳なく思っていました。

訓練は朝早くから夜遅くまで、かつ、土日も関係なく実施されたため、我々スタッフも勤務時間では大変苦勞しました。

【パーソナリティー】

そのような状況で東北防衛局は地元自治体に対し、どのように理解してもらおうと考えたのでしょうか。

【古川】

やはり訓練を実際に見学してもらうのが、効果的ではないかと考えました。

防衛本省や訓練を企画する陸上自衛隊などと調整し、地元自治体の方々を対象にした訓練見学会を開催することとしました。

見学会にあたっては、自治体の協力のもと、参加者の名簿作成や、当日の受付などを担当し、参加者に事故の無いよう気を配りました。

【パーソナリティー】

共同訓練の様子はどうですか？

【古川】

はい。宮城県にある王城寺原演習場で訓練を公開した際に、私も見学しました。

演習場内にホテルや銀行、スーパーマーケットなど、市街地を模した建物を使用して訓練が行われ、これらの建物に籠った敵を制圧するという訓練でしたが、フランス軍と自衛隊が連携して、建物に突入す

る様子はとても迫力がありました。

訓練の内容は、人質を拘束して建物に逃げ込んだゲリラを掃討し、人質を救助するという想定で、陸上自衛隊とフランス陸軍がしっかり連携して周りを警戒しつつ、小銃で射撃しながら建物へ突入し、敵を制圧するものでした。

岩手山演習場でも同様の内容で訓練が行われましたが、敵の撃滅のために、小銃や対人狙撃銃の他にも迫撃砲や榴弾砲、戦車砲が使用され、総合的な射撃が行われました。

自衛隊とフランス軍のそれぞれの火器・火砲による射撃を連携して訓練を行った訳ですが、特に榴弾砲や戦車砲は、空砲射撃でもかなりの迫力だったと思います。

【パーソナリティー】

音も凄かったということでしょうね。

【古川】

はい。我々防衛省の人間は射撃音には慣れていますが、演習場周辺の住民の方々にとっては、びっくりすることもあるかと思います。

【パーソナリティー】

そのような騒音が発生する場合は、演習場近隣の方々には、何か対策をされるのでしょうか？

【古川】

はい。今回の訓練では、計画段階から、岩手山演習場において射撃訓練が実施される予定がありましたので、東北防衛局では事前に関係自治体へ、騒音が発生する可能性がある旨をお伝えするなどして訓練の説明を行いました。

騒音の対策の一つとして自治体では、訓練直前に防災無線を使用して周辺住民の方々へ射撃情報の周知をしていただきました。

このように関係自治体や周辺住民の方々にはご理解とご協力を頂き、大変感謝しています。

【パーソナリティー】

皆さんの理解があって、訓練が円滑に実施できるということですね。

今後もこのような訓練は予定されているのですか？

【古川】

はい。現時点では、東北地方における他国との共同訓練の予定はありません。

東北防衛局では、今後も、出来るだけ迅速な情報提供と丁寧な説明を心掛け、地元の皆様の声に耳を傾けることなどを念頭におきながら、対応していきたいと考えております。

【パーソナリティー】

分かりました。本日は、東北防衛局の古川^{こがわ}室長にお話を伺いました。

ありがとうございました。

【古川】

ありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆さまからご意見・ご感想を募集しております。お聞きのコミュニティ放送局までご連絡ください。